

LES HORIZONS GAGNES

いま私は天と地の間に立つ！
そして、星にむかってさらに高く
アルプスの哲人レビュファの限らない山への愛と挑戦を描く壮大なフランス山岳ドキュメントノ

新・天と地の間に

星にのぼれたザイル

製作・監督・台本・主演 ガストン・レビュファ

■撮影ルネ・ベルナデ ■出演リノ・ドンビート/ジャン・ジュージュ/コンラット・キルシュ/鈴木 誠二 ■日本語版解説/近藤 等 ■日本語版解説/フランス映画

〈カラー作品〉

日本ヘラルド映画



天と地と人。悠久の天と神秘の大地、その間にはさまった小さな小さな人間。そしてその人間の構成になる社会。でもしばしば人間は己れの小ささを忘れて錯覚することがある。大地も天も自分の手の中にあるのだと……。しかし真実は、おそらく違っただろう。

変転きわまりない自然こそが人間をはるかに凌駕し、なおかつ人間の存在を視つめる母なる存在なのである。

「新・天と地の間に／星にのぼされたザイル」というこの作品は、大地について、自然についてまさにそのような考えに到達した1人のアルピニストの沈黙の闘いを描く記録映画である。記録というよりは「映画詩」というべきであろうか。

ガストン・レビュファ……世界的なアルピニストとしてあまりにその名まえは有名だ。彼は55歳の今日にいたるも岩壁の登はんを止めない。その衰えることを知らない情熱、体力、意志の力。いったいなにが彼をしてこの止むところのない山登りに駆りたてているのだろう。

× × × ×

【内容】登山でいちばん大切なこと、それは人間を信じあう心だ——とレビュファ、はいう。今回、彼はこのことばどおりに、さまざまな国のさまざまな年令のアルピニストと組んで縦走、岩壁登はん、山登りを行なう。それらはバル・デ・ゼ克蘭(4,101m)の北壁、ラ・メイジュ

の南壁、シャモニ針峰群縦走(すべて3,500m級の山々)、ワヨレットの3姉妹峰、ロシュフォール山稜とダン・デュ・ジェアン(4,013m)の南壁、ピニユマル、ピク・ロング(3,298m)の北壁、グラン・カピュサン(3,838m)の東壁etcといったところであり、それらはすべてフランス、スイス、イタリア、スペイン国境にまたがる山岳地帯である。

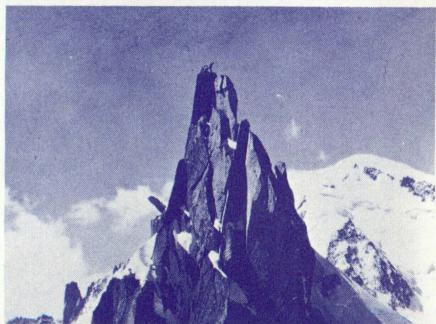
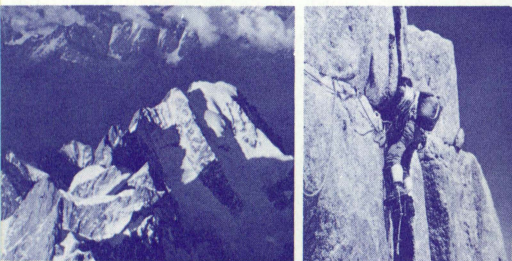
そしてレビュファとコンビを組むパートナーのアルピニストは6人。アメリカ人、スイス人、イタリア人、日本人、フランス人、ドイツ人という多彩な国の登山家である。日本人は鈴木勝さん。

これらのパートナーと組んで、垂直に切りたった絶壁を登り、ナイフの突端のごとき頂上に立ち、お花畑に束の間の休息をとる……。沈黙と緊張と静かな歓喜……レビュファと崇高な山々の奏でるシンフォニー。

この困難な撮影を敢行したのは有名な山岳カメラマン、ルネ・ベルナディ。彼に協力した5人のカメラマン。さらに空中撮影もふくめたスケールの大きい映像が観る人のすべてを清浄な空気と峻厳にして美しいアルプスの山々へと誘う。

岩壁を一步一步よじのぼる緊張とスリル、成功の満足感と解放感。清涼感がさわやかな感動を呼ぶ美しい詩。あなたはいま“星に向ってのぼされたザイル”をレビュファと掴んだところですか。(原題「かちとられた地平線」/カラー)

＜カラー作品＞フランス映画
日本語版監修／近藤 等
日本語版解説 矢島正明
日本ヘラルド映画



新・天と地の間に

■レビュファ・トータル・ファッション製造販売/ダイワスポーツ
■原作カラー版/山と溪谷社

星にのぼされたザイル

■6月19日(土)待望のロードショー!

東急レックス (407) 月曜日のみ
7019 2.00の回で終了

＜時 間＞ 11.40 2.00 4.20 6.40 日祝は10.00より

特別鑑賞券850円絶賛発売中!

■同時上映■

彫る 棟方志功の世界



＜カラー作品＞短篇
毎日映画社
美術映画製作協会 提携作品
日本ヘラルド映画



製作／草壁久四郎
製作・脚本・監督／柳川武夫
ナレーター／鈴木瑞穂

SHIKO NAKATA

■主な受賞・選奨

芸術祭大賞受賞
文部省特選
昭和50年度キネマ旬報ベストテン文化映画第1位受賞
昭和50年度日本映画技術賞受賞
優秀映画鑑賞会特薦
日本映画ペンクラブ特薦